



# シイタケ原木栽培で

# 夏の温度管理は重要です

生産が低下し  
ないか心配

将来暑くなっ  
ても大丈夫？



シイタケ菌は 25℃で最も旺盛に成長し、それ以上の温度になると急激に弱まるため、高温はストレスとなります。静岡県の夏の気温は 30℃を超える日が 50 日もあり、シイタケ生産現場への影響が心配されています。

そこで、森林・林業研究センターでは、原木栽培でほだ木がどれくらいの温度になっているか、発生量に影響するか調査を行いました。

高温ストレス区(日光)



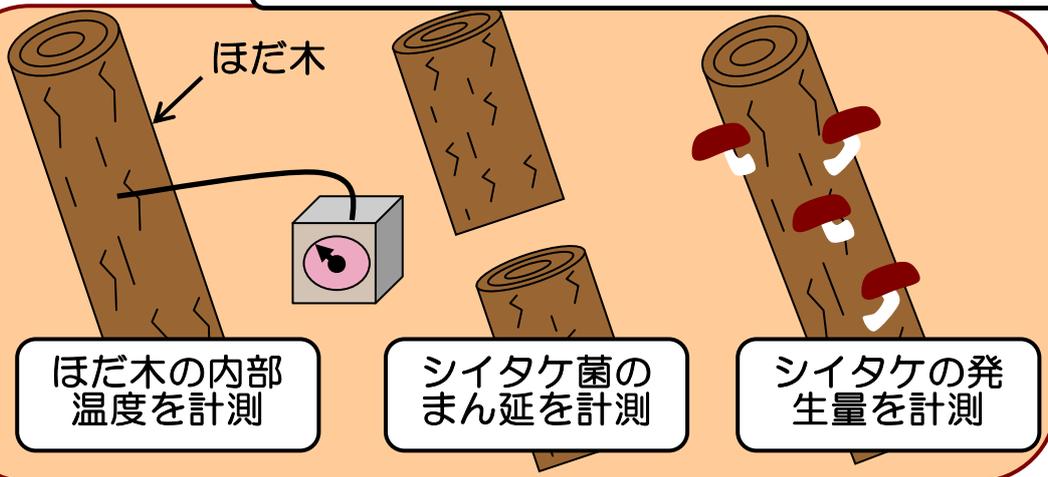
通常区(林内)



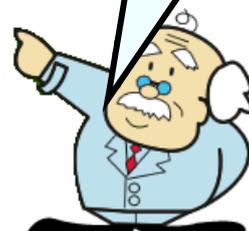
通常区(人工ほだ場)



3つの場所で試験を行いました。



裏面には、  
詳しい試験説  
明があります。



## 実際のほだ木の温度は？

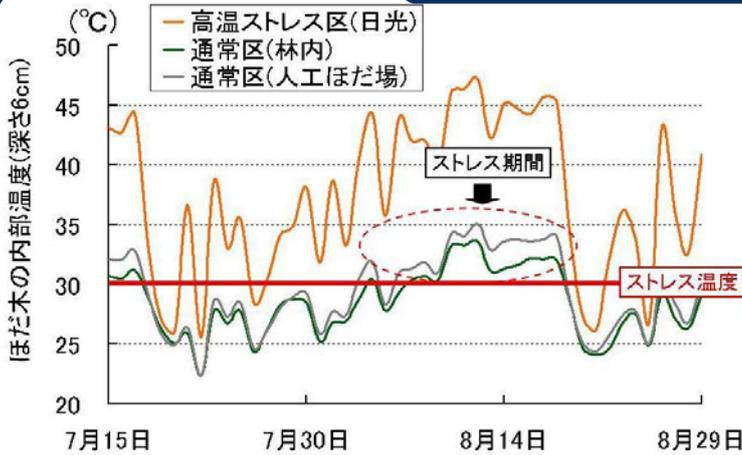


図1 夏のほだ木内部温度の推移

林内や人工ほだ場に置かれているほだ木も30°Cを超える日が2週間続きました。

日光の当たる場所に置かれたほだ木は最高で45°C以上になりました。

## 高温の影響は？

シイタケ菌が高温ストレスを受けると、菌が成長しません。

シイタケ菌が十分に成長しないので発生量が低下します。

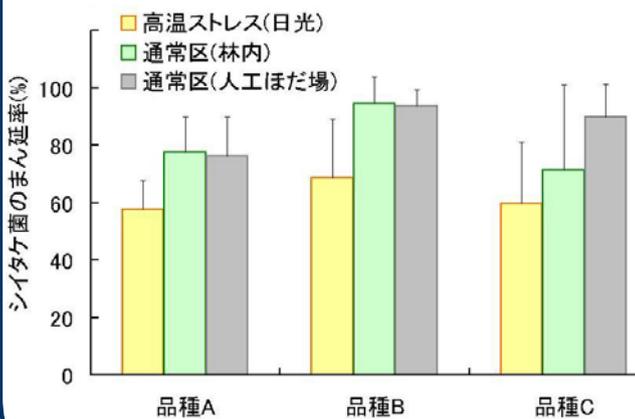


図2 ほだ木のシイタケ菌のまん延率

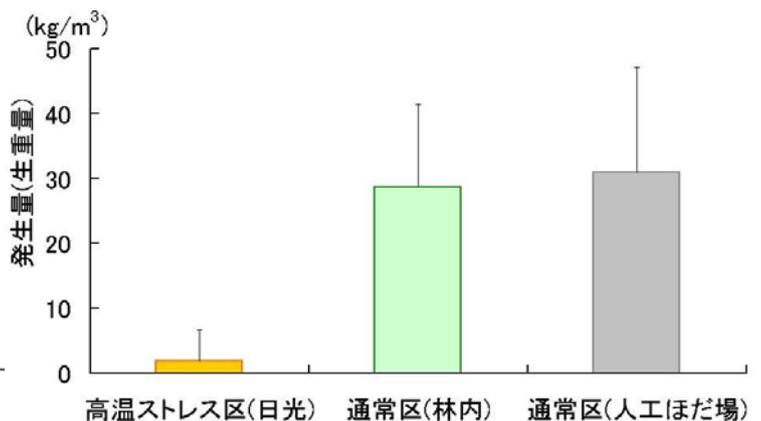


図3 シイタケの発生量

ほだ木が高温になるとシイタケ菌のまん延が阻害され、発生量が低下します。林内や人工ほだ場でも高温ストレスを受けることが考えられます。

温暖化による暑い夏が予想され、ほだ木の温度上昇に注意が必要です。多めの散水や強めの遮光などで夏のほだ木温度を調整しましょう。

